

## 令和2年度 第1回岡崎市文化財保存活用地域計画協議会

開催日時：令和2年6月26日（金） 午後1時30分～午後2時30分

開催場所：岡崎市役所分館2階 202号室

出席委員：14名

瀬口哲夫委員（会長）・加藤安信委員（副会長）・島津達雄委員・野本欽也委員・三浦正幸委員・靱井泰晴委員・氏原久元委員・早川久右衛門委員・深田賢之委員・丸山直哉委員代理・手嶋俊明委員・植山論委員・杉山弘朗委員・小野鋼二委員

欠席委員：1名 河内利弘委員

説明のために出席した事務局職員：5名

社会教育課：中村耕社会教育課長・柴田英代社会教育課副課長・菅沼貴之岡崎城跡係係長・岡山幸男文化財係係長・武田穂波文化財係主事

傍聴者：なし

### 議事内容

#### 1 議題

- (1) 文化財保存活用地域計画の概要について
- (2) その他

### 議題及び議事の要旨

#### 1 協議事項

- (1) 文化財保存活用地域計画の概要について

##### 【社会教育課説明】

資料1について説明する。新型コロナウイルス対策のため、今年3月に予定していた協議会の開催を中止したが、協議会資料について各委員から御意見をいただいた。今後は、これらの御意見等を踏まえて、計画策定を進めていく。

続いて資料2について説明する。岡崎市文化財保存活用地域計画の素案は、今回お示ししたとおりである。本協議会では、全体を通じた御意見のほか、特に第5章「岡崎の歴史文化の特徴」および第6章「保存・活用の基本的方針」について御議論いただきたい。

なお、資料3は今後の策定スケジュールを示している。

##### 【質疑応答】

委員：りぶらの北や板屋町に歴史的建造物があったが、取り壊された。維持するための資金不足が背景にあり、残していくことは、大変である。

委員：岡崎の歴史文化を多くの人に知ってもらいたい。それが観光振興に結びついたり、地域に対する誇りの醸成やアイデンティティの確立に結びついたりする。また、今日のニュースで岩津城跡が取り上げられていたが、民間でもやれるという機運を高める取組が重要だ。計画案の第5章にて岡崎市の歴史文化の特徴をまとめているが、これが多くの人の目に触れる機会をつくっていただきたい。

- 委員：本計画では、ストーリーとともに歴史文化資産をつないでいるが、これらストーリーの内容を明確にして、市民の機運向上につなげていただきたい。
- 委員：岡崎の歴史文化の特徴のうち「水が織りなす自然の営み」が最後に記載されているが、地域の自然は人が生活する前提であるため、これを前に移動させた方が良いと思われる。また、関連文化財群の設定について、指定文化財の所有者も納得できるような形で設定し、地域住民の参画も得ながら活用結び付けられると良い。
- 委員：岡崎の歴史文化および発展は、水系が大きく関わっていると考えられるため、そのことについての記述があれば良い。また、「自然」として一括りにするのはではなく、他と関連付けることが望ましい。
- 委員：目次にページ数を挿入すれば見やすくなる。また、写真の下に出典を追加するなど、見てもらいやすくする工夫があれば良い。
- 事務局：今回お示しした資料は素案段階であるため、御意見の内容については、今後具体化を進める中で検討していく。
- 委員：最終的には文化財一覧を追加すると思われるが、これら資料の充実を図っていただきたい。
- 委員：関連文化財群の具体的な活用にあたって、文化財の特徴を知ってもらうことが必要と考える。そのためには、各文化財に対する歴史的な裏付けを整理することが重要だ。これによって説得力のある関連付けが可能となる。  
また、第6章に「未指定文化財把握調査」とあるが、市内の民家・商家から分かる岡崎市の特徴についても分析・整理していただきたい。  
その他、額田地域には歴史的に重要な民具が数多く所在しており、これらは他地域との広域的なつながりの裏付けとなっている。これらをデータベース化することで、一体的・総合的な文化財の把握ができると良い。
- 事務局：ただ今の御意見を踏まえ、内容の修正を図りたい。また、措置の内容についても検討し、次回までにお示ししたい。
- 委員：本計画では、関連文化財群とストーリーをそれぞれ設定し、それらに合った文化財保存活用区域を設定する。そのため、素案 p.10 の地図は、本計画に沿ったものに修正していただきたい。
- 委員：本計画では、「家康『公』」と表記しているが、家康だけこのような表記とする理由があれば教えていただきたい。
- 事務局：歴史的風致維持向上計画において同様の表記がされていること、また、家康公生誕の地であることを誇りに思う顕彰の意識として、このような表現としている。
- 委員：そのような理由であれば、その旨を計画書に記載しておくが良い。
- 委員：「三河真宗と一向一揆」について、詳細な内容がまとめられている一方、マイナスイメージがやや出ているように感じられる。全体的なボリュームの調整等を図ってはいかがが。また、室町時代における岡崎の建築文化は全国でも上位に位置していた。しかしながら、素案に載っている建造物は一部に限られており、ややもったいなさを感じる。その他、家康公を中心に考えるのなら、浄土宗や関連する文化財のストーリーも設定した方が良いと思われる。

委員：岡崎の歴史文化を語るにあたって、矢作川や乙川は外せない存在だが、生活としての関わりだけでなく、「川が生んだ信仰」といった視点も欲しい。また、関連文化財群の設定に際して、岩津地域があまり触れられていないことに違和感を覚える。その他、関連文化財群の「水が織りなす自然の営み」に植生が含まれていることにやや疑問を感じる。

事務局：ただ今の御意見を踏まえ、再度検討したい。

委員：第6章「保存・活用の基本方針」について、文化財の保存・活用における所有者負担は大きいため、資金確保の手立てが求められる。

事務局：文化財行政にとっても国の補助金や市の予算確保は長年の課題であるとともに、今後も重要な課題である。また、措置の検討にあたって、現在行われている民間での取組は先進事例として参考にしたい。

委員：活用の視点から考えると、全ての文化財がその対象に含まれる訳ではないが、経済的に活用できる文化財を増やしていくことが重要である。

委員：文化財の活用促進が課題であるため、推進していく上での体制整備が求められる。

委員：素案 p. 51「活用促進に関する基本方針」について、内容がやや内部的なものに偏っている印象を受けた。クラウドファンディング等、民間の視点も取り入れた方針も必要ではないか。

委員：基本方針の具体性がやや欠けているように思われる。もう少し詳細な内容にした方が良い。

委員：文化財の保存・活用の前段階として、まずは多くの市民に知ってもらい、愛着や誇りを持ってもらうことが重要である。また、若者を取り込んで推進していくことも必要だ。

関連文化財群は、修正等を含めて内容の充実を図っていただきたい。

## 2 その他

次回協議会は令和2年9月に実施予定